

TSUDA TODAY

No. 128

津田塾大学

July 2023



津田塾大学創立120周年記念事業

■写真展『草木の聲』開催

本学の創立120周年記念事業として、2023年6月1日～23日の期間で写真展『草木の聲』を津田梅子記念交流館山根記念ギャラリーにて開催しました。志村ふくみ氏(染色家・人間国宝)の芸術精神を継承するアトリエシムラのものづくりを見つめてきた写真家田口葉子氏の写真作品30点、草木から染められた糸、布がギャラリーに展示され、初日から多くの学生、教職員、一般の方々が来訪しました。



ギャラリートークの様子 田口葉子氏(左) 志村昌司氏(右)

初日には館内の岡島記念チャペルにて、アトリエシムラ代表の志村昌司氏と田口葉子氏のギャラリートークも開催され、志村氏からは、自然に囲まれ、四季折々に変化をするアトリエでの日常が語られました。それを間近で見つめ続けた田口氏からは、「その『色』は想像を超え、絶えず変化し、まるで生き物を撮っているみたいでした」というお話がありました。

ギャラリーには本学の桜の枝で染めた糸で織られた袱紗(ふくさ)の展示もあり、緑豊かな小平キャンパスの中で、植物の色彩世界の美しさを感じることは、日々のキャンパスライフに新たな視点を与えてくれるものとなりました。



写真展『草木の聲』の展示

■国際化推進事業 VARTAN MURADIAN氏講演会

”UKRAINE: WHEN THE WORST THING HAPPENED”



VARTAN MURADIAN 氏(左)と千田悦子氏(右)

2023年5月11日(木)、ウクライナ出身でUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)ウクライナ事務所職員のVARTAN MURADIAN氏を講師としてお招きし、本学卒業生で元UNHCR職員の千田悦子氏による日本語の補足説明を交えながら、”UKRAINE: WHEN THE WORST THING HAPPENED”と題した講演会が行われました(主催:国際センター・協力:経営企画課)。

前半はウクライナ周辺の地図も交えながらウクライナの歴史について語られ、ウクライナの美しい風景写真や侵攻が始まった日のビデオなどが流されました。後半ではUNHCRやUNICEFなど、多くのNPO団体による支援の内容や、現在のオランダでのお仕事などについてお話しいただきました。

参加者は熱心に講演に聞き入り、質疑応答の時間には英語で多くの質問が寄せられました。内容について話し合いながら帰っていく学生の姿も見られ、得る物の多い講演会となりました。

講師略歴: 2015年からUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)に勤務、ウクライナのドネツク州とハリコフ州において各組織との渉外調整を担当。2022年3月、ロシアからの爆撃開始後にオランダへ避難。現在UNHCRを退職し、オランダの市役所にて一時的に働きながら、ウクライナの難民支援にあたる。

2023年度 新入生歓迎礼拝 奨励要約

「Choose your “why”」

▶奨励者: 英語英文学科フルブライト招聘教員 Doyle Srader, Ph.D.

聖書朗読箇所: イザヤ書第55章1節～13節(新共同訳聖書)

私は皆さんにどのようにしたら成功するのかをお話したいと思います。それは「なぜ(Why)?」と問い、それに自分自身で答えることです。

津田梅子は、裕福な人と結婚し、子供を産み育てるべきだと言われた時、「なぜ?」と問い、私も大学に入学し、周りの人から就職に役立つ専攻を選ぶべきだと言われた時、「なぜ?」と問い、答えを探し求めました。今日の聖書箇所の第6節(主を尋ね求めよ…呼び求めよ…)に私たちの答えがありました。神の思いと道は私たちの思いや道より崇高なものであるということです(第8・9節)。そして最後の4つの節には、すばらしい約束があります。神の御言葉は誰の耳に入る時も、むなしく神の元に戻ることは絶対がないという約束です。私は以前、他の人が成功すると嫉妬していました。しかし私のすべきことはたった一つしかないことに気づきました。神はこの世界を新しく、より良いものにするために働かれています。私は神が私に与えてくださった仕事に取り組んできましたが、それは喜びに満ちた生き方でした。

大学で自分の人生を問い直してみましょう。「なぜ?」と問い、自分自身で答えを出すのです。



2025年度入試からのトランスジェンダー学生(性自認による女性)の受験資格について

津田塾大学では、2025年度入試(2025年4月に入学する学生が受験する入試)より多様な女性のあり方を尊重することを基本方針とし、女子大学で学ぶことを希望するトランスジェンダー学生(性自認による女性)にすべての学部、大学院研究科にて受験資格を認めることといたしました。

この基本方針は、1900年から女性に高等教育の学びの場を提供してきた本学の伝統を継承する、「Tsuda Vision 2030」のモットー「変革を担う、女性であること」を推進することでもあり、同時に、多様な価値観の共生を目指す社会の構築に貢献することでもあります。本学は、多様な女性の学ぶ権利を守り、共に学ぶ環境を整えてまいります。

性に多様性があるということを社会全体でどのように理解を進めていけるのか。多様な女性のあり方を包摂していく過程で、周縁に置かれている様々な女性たちがエンパワーされ、自らの力量を信じて真摯に前進していけるよう支援していく。それが、21世紀の女子大学のミッションであると考えます。

津田塾大学 学長 高橋 裕子

2022年度第3・4ターム 授業に関するアンケート実施結果

2022年度第3・4タームの授業に関するアンケートを11・1月に実施しました。延べ45,743人の履修者数に対して回答者数は17,903人、回答率は39.1%でした。設問1~12、18~25は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、ほとんどの設問において4点以上と高評価を得る結果となりました。設問13~15、17は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問となっております。

これら結果については引き続き学内で検討を行うと同時に、今後もアンケートを実施し、さらなる授業改善に努めてまいります。

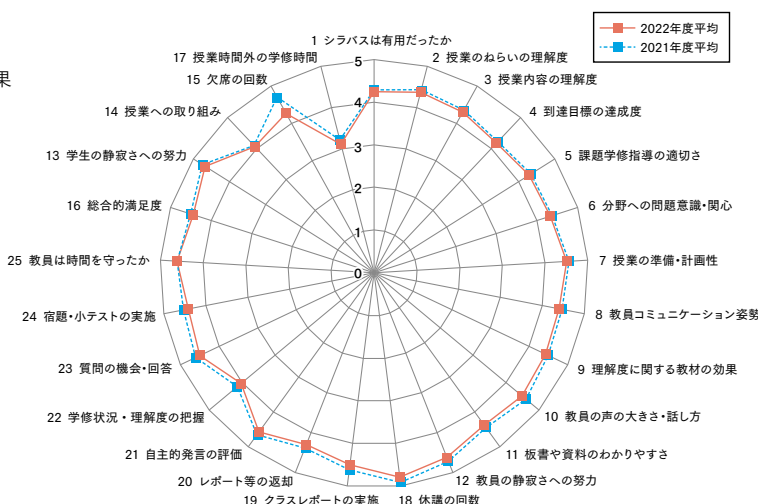
授業に関する設問

- この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
- 各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
- 各回の授業の内容は理解できましたか。
- 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
- 課外学修の指導(参考文献の提示、文献の調べ方など)は適切でしたか。
- この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
- 教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
- 教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
- 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。
- 板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
- 教員は静かな環境で受講できるよう努力していましたか。
- 総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
- 教員は何回ぐらい休講(補講のないもの)をしましたか。
- 教員はクラスレポート(口頭発表)を課し、論評していますか。
- 教員はレポート等の返却(またはその告知)をしていますか。
- 教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
- 教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
- 教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
- 教員は宿題や小テストを課しましたか。
- 教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

- 13 授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
- 14 この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
- 15 この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
- 17 この授業に関して、授業時間外で学修に当てた時間は毎週どれくらいでしたか。

※ 文献調査・資料収集を行った時間も含む



※ 設問別 回答内容

問1~14、19~25	[5]: 大いにそう思う [4]: そう思う [3]: どちらともいえない [2]: あまりそう思わない [1]: そう思わない
問15(欠席回数)	[5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上
問16(総合満足度)	[5]: 満足 [4]: やや満足 [3]: ふつう [2]: やや不満 [1]: 不満

問17(授業外学修時間(週))

[5]: 3時間以上 [4]: 1-3時間 [3]: 30分-1時間 [2]: 30分未満 [1]: ほとんど行かなかった

問18(休講回数)

[5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上

2022年度 進路状況報告

学生生活課

コロナ禍が落ち着いた2022年度卒業生の就職活動はオンラインと対面のハイブリッド就活が定番となりました。2021年度より対面授業が再開され、学内では授業の合間を縫ってPCに向かい就職活動を行う学生の姿が多く見られました。小平キャンパスではAVライブラリーの個別ブース、千駄ヶ谷キャンパスではグループ室の貸し出しを行い、学内でオンラインの面談や面接に参加する学生のサポートを行いました。

大学で開催するキャリア支援も非常時のオンライン対応から、効果的なオンライン活用が求められるようになったことを受け、キャリアセミナーは完全オンライン形式や対面とのハイブリッド形式など、内容に応じて開催形式を工夫しました。2020年より利用を開始した「ビズリーチ・キャンパス」を活用したOG訪問のオンラインプラットフォームでは学生が卒業生に直接コンタクトできる仕組みを継続しています。キャリアカウンセラーによるキャリア相談もオンラインが対面かを学生が選択でき、帰省先や留学先からの相談にも対応しています。

オンライン就活の定着を経て学生たちは学内外の様々な就職サービスが気軽に利用できる状況となりましたが、一方で学内企業説明会や学外学修センター

のインターンシップで接点を持った企業への就職希望が増えている状況をふまえ、これまで以上に津田塾ならではの支援を目指しています。

就職決定率(就職希望者のうち就職先を決定した学生の割合)は昨年度同様の97.0%となりました。民間企業の活発な採用意欲を受けて教員・公務員の比率が下がり、民間企業への就職を決める割合が多くなりました。

2022年度には多文化・国際協力学科の1期生を送り出しました。国際社会で必要とされる実践的な学びを活かせる業界として商社への希望が多いことや、公的機関やインフラ業界を選ぶ割合が高いことが特徴となりました。

学芸学部理系2学科(数学科、情報科学科)は進学者が昨年度と比べ約10%の割合で増加しました。

文系では情報サービスを選ぶ学生の割合が毎年増加しています。理由としては、学ぶ意欲が高い本学の学生の気質が常に新しい技術を学び続ける必要があるIT業界の特性と非常にマッチしていることによると思われます。加えて、在学中から授業やインターンシップを通してIT技術やプログラミングに触れる機会が増えていることも後押しをしています。文系理系の枠を超えて、学生の希望をかなえる支援を大学全体で目指してまいります。

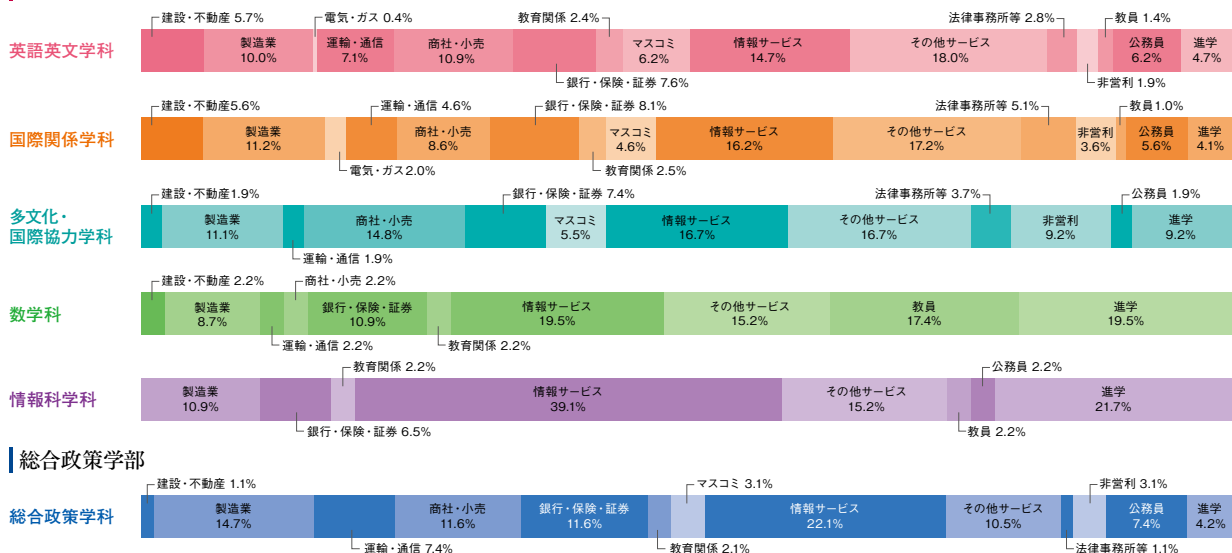
▶ 2022年度 卒業生進路状況

	学芸学部					総合政策学部	合計
	英語英文学科	国際関係学科	多文化・国際協力学科	数学科	情報科学科	総合政策学科	
卒業生数	235	221	65	50	50	110	731
就職希望者数	210 (89.4%)	196 (88.7%)	50 (76.9%)	39 (78.0%)	38 (76.0%)	94 (85.5%)	627 (85.8%)
就職者数(決定率*)	202 (96.2%*)	190 (96.9%*)	50 (100.0%)	37 (94.9%*)	36 (94.7%*)	93 (98.9%*)	608 (97.0%*)
進学者数	8 (3.4%)	7 (3.2%)	4 (6.2%)	9 (18.0%)	10 (20.0%)	8 (7.3%)	46 (6.3%)
その他	25 (10.6%)	24 (10.9%)	11 (16.9%)	4 (8.0%)	4 (8.0%)	9 (8.2%)	77 (10.5%)

() 内%は卒業生に対する割合。*ただし、就職決定率は就職希望者のうち、就職を決めた者の率。

▶ 2022年度 業種別就職者および進学者の比率

学芸学部



▶ 学部別 就職者数の多い企業等一覧(順不同)

学芸学部		総合政策学部	
就職者数	就職先	就職者数	就職先
5名	日本電気(株) (NEC)	4名	アクセンチュア(株)
4名	日本アイ・ビー・エム(株)	3名	日本アイ・ビー・エム(株)
4名	富士通(株)	2名	日本電気(株) (NEC)
4名	東京海上日動システムズ(株)	2名	富士通(株)
4名	青和特許法律事務所	2名	TIS(株)
4名	(株)野村総合研究所	1名	(株)NTTドコモ
3名	アクセンチュア(株)	1名	日本航空(株)
3名	三菱電機(株)	1名	日本郵船(株)
3名	日本銀行	1名	アマゾンジャパン(合)
3名	(株)時事通信社	1名	三井物産(株)

▶ 学科別 教員・公務員就職者数

学科	教員※		公務員	
	専任	常勤・非常勤	国家	地方
英語英文	3	0	3	10
国際関係	2	0	4	7
多文化・国際協力	—	—	0	1
数学	4	4	0	0
情報科学	1	0	0	1
総合政策	—	—	1	6
合計	10	4	8	25

※多文化・国際協力学科と総合政策学科には教職課程が設置されていないため該当者なし

2023年度 課外活動奨励金支給団体一覧

課外活動奨励金は、グループで行う課外活動（サークル活動や自主ゼミ等）を大学として積極的に支援し、学生生活の活性化を図るための奨励金制度です。今年度の課外活動奨励金受給団体は、面談の結果、次のとおり決定しました。

小平キャンパス

1. 一橋大学体育会水泳部
2. 剣道部
3. 一橋・津田塾・農工大ギター部
4. 津田塾大学弓道部
5. maesil jaem
6. 津田塾大学ソフトテニス部
7. 津田塾大学草月流華道部
8. 一橋大学・津田塾大学合唱団ユマニテ
9. 津田塾大学書道部
10. フラサークル Papalina
11. 箏曲部
12. 津田塾大学放送研究会
13. MathUnion
14. 津田塾大学卓球部
15. 一橋津田塾体操部

16. DanceNuts
17. 一橋大学津田塾大学写真部
18. 津田塾大学合気道部
19. 劇団コギト
20. 津田塾プロジェクトンマッピング
21. 一橋大学管弦楽団
22. 劇団 wick
23. Green Tsuda
24. 津田塾大学体育会ゴルフ部
25. 一橋大学馬術部
26. 津田塾大学軽音楽部
27. 津田塾大学オリエンタリングクラブ
28. 一橋大学・津田塾大学少林寺拳法部
29. 一橋大学津田塾大学吹奏楽団
30. 一橋大学 TheFirstCry
31. 一橋大学ラフティング部ストローム会
32. 学生団体レアスマイル

33. 一橋 Do!
34. 津田塾大学表千家茶道部
35. 津田塾大学ものづくりサークル
36. グラシェールスキーチーム
37. 津田塾大学英語会
38. 一橋・津田塾ボクシング部
39. フィールドホッケー部
40. 津田塾大学陸上競技部

千駄ヶ谷キャンパス

1. 千駄ヶ谷書道会
2. Uméson-Habitat
3. うめりある
4. トランスジェンダー学生迎え入れに関する学生団体
5. Tsuda Outreach
6. 学生団体 MARU

寄付者ご芳名（2023年4月1日から2023年5月31日現在 掲載希望者のみ）

サポート＜津田スピリット＞募金

【文学研究科鷲見八重子海外研究支援奨学金】 鷲見 八重子 様
【土居光知先生基金として】 匿名

【津田塾大学教育振興資金】 曾我 晃久 様 萩谷 友紀 様
【学修環境整備（小平キャンパス）】 石井 倫子 様

サポート＜津田スピリット＞募金 創立120周年記念事業募金

土屋 典子 様 見目 純子 様 保谷 明子 様 首藤 介伸 様 宮武 礼子 様 高橋 啓子 様 山内 尚子 様 金子 貴洋 様 山浦印刷株式会社 様
水谷 正大 様 高橋 裕子 様 中村 悦子 様 奥田 勝男 様 高須 泰子 様 中尾 昌子 様 青木 憲司 様 千村 政広 様 他35名様

サポート＜津田スピリット＞募金 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急募金

足立 直子 様

理事会・評議員会開催報告

第318回理事会 2023年4月28日

【審議事項】

1. 理事の競業に係る個別承認に関する件
2. 寄附行為の変更に関する件
3. 学長の任期に関する規程の改正に関する件

【報告事項】

1. 名誉教授称号授与及び津田塾友の称号授与について
2. 2023年度入試志願者状況と入学者数について
3. 2023年度内部監査計画について
4. 一般事業主行動計画について
5. 私立大学ガバナンス・コード改訂について
6. トランスジェンダー学生の受け入れの検討状況について
7. その他

第319回理事会 2023年5月26日

【審議事項】

1. 2022（令和4）年度事業報告及び第1期中期計画の進捗状況の報告に関する件
2. 2022（令和4）年度決算（案）に関する件

3. 役員賠償責任保険の更新に関する件
4. トランスジェンダー学生の受入れに関する件
5. 理事の選任に関する件
6. 理事会選出評議員の選任に関する件
7. 監事の選任に関する件
8. 非常勤講師就業規則改定に関する件

【報告事項】

1. 2022年度卒業生の進路について
2. 2022年度及び2023年度公的研究費の管理件数について
3. 私立学校法の改正について
4. 千駄ヶ谷土地一時使用賃貸借契約満了に伴う今後の用途について
5. その他

第200回評議員会 2023年5月26日

【審議事項】

1. 評議員の選任に関する件
2. 理事の選任に関する件
3. 監事選任の同意に関する件
4. 寄附行為の変更に関する件
5. 学長の任期に関する規程の改正に関する件

6. トランスジェンダー学生の受入れに関する件

【報告事項】

1. 2022（令和4）年度事業報告及び第1期中期計画の進捗状況の報告について
2. 2022（令和4）年度決算（案）について
3. 役員賠償責任保険の更新について
4. 2022年度卒業生の進路について
5. 2023年度入試志願者状況と入学者数について
6. 創立120周年記念事業募金の中間報告について
7. 私立学校法の改正について
8. その他

第320回理事会 2023年5月26日

【審議事項】

1. 寄附行為の変更に関する件
2. 学長の任期に関する規程の改正に関する件
3. トランスジェンダー学生の受入れに関する件

【報告事項】

1. 評議員会選出理事及び監事の選任について
2. その他

津田塾大学 2022年度事業報告書 <抜粋>

1 重点事業

2022年度は重点事業として以下の事業を実施した。

【教育分野】

- 学部カリキュラムの見直し
 - 国際関係学科及び情報科学科では、2023年度の実施に向けて、カリキュラム改訂を行った。
 - 学科AC (After Care) 最終年度においては、3年次以降に実施が義務付けられているフィールドワークのカリキュラムにおける位置づけを明確にし、『履修要覧』に記載した。全体のカリキュラムは、2024年度改訂を目指し、引き続き検討していく。
 - 情報科学科における検討を受けて、今後、学芸学部将来構想委員会で検討する予定である。
 - 2023年度カリキュラム変更後の開講科目に対する専任教員配置調整、非常勤講師への出講依頼を実施した。
 - 2022年度でAC (After Care) が修了する多文化・国際協力学科を含めて、全学科が「基本方針」に基づく3ポリシーの見直しを行った。
 - 全学将来構想委員会で全学部のDP (Diploma・policy) に全学共通教育について明示することを決定した。学芸学部及び総合政策学部では、秋入試での入学予定者に対し、入学前に取り組むべき課題を提示し、提出させている。また、大学教育に必要な学習方法の習得等を目的として、全学科1年セミナーを必修とし、初年次教育を行っている。
 - 2022年度数理・データサイエンス・AI認定プログラム (リテラシーレベル) が認定され、全学情報教育運営委員会がスタートした。
 - コロナ下における国際化推進科目を英語英文学科、多文化・国際協力学科及び総合政策学科で実施した。メディアを高度に利用した授業を選定・実施した。
 - 全学で、入学者のGPAによる追跡調査を行い、各入試方式が妥当であることを確認し、GPA1.0未満の学生に対し面談を行うなどの支援を行っている。

【学生支援分野】

- 学修支援強化
 - 2センター (ライティングセンター・女性研究者支援センター) の運営体制に変更はない。引き続き業務の効率化に留意する。学外学修センターについては、後述の通り運営体制を見直した。
 - 2024年度からの学外学修センター及びキャリアセンターの機能統合後の新センター設置に向け、2023年4月より、学外学修センターが本館から7号館1階に移転し、キャリアセンターとともに運営する体制を整えた。一連の準備作業は、事務局の下に設けられた「学外学修センター キャリアセンター 統合WG」で進めている。
- 奨学金制度の周知と柔軟な運用
 - 緊急時に緊急時対応奨学金を適用していたが、これに代わり新型コロナウイルス感染拡大による困窮学生支援奨学金を新たに制定し、奨学金の使途目的や応募要件を明文化した。
 - 今年度は新型コロナウイルスによる感染拡大の影響が少ないことから、基金化された奨学金の利息を活用した奨学金は実施しなかった。
 - 奨学金サイト掲載内容を日々チェックし、必要な情報を細目に更新を行った。
- 進路支援強化
 - これまで学芸学部理系学科を対象としていたセミナーや求人は、両キャンパスの学生を対象とすることにした。
 - 学芸学部の進路はリベラルアーツの学びを活かした幅広い業種への就職となっている。学内企業説明会や通常の進路セミナーで、多文化・国際協力コース卒業生の進路を参考にするほか、国際協力分野の企業の登壇を増やし、多様な進路を示している。
 - オンラインによる業界セミナー等で当日の運営を外部委託できるものは外部委託し、人材育成に注力できる方向で業務を行った。
 - 2022年度は3年ぶりに「キャリア授業」を再開した。学芸学部の科目であるが総合政策学部からの受講もあり支援効果があった。
 - 2022年度のキャリアセミナーと第2タームのキャリア授業では、80講座に59名の卒業生に現在の仕事の様子や今後のキャリアについてお話いただいている。オンライン開催により、卒業生が登壇しやすい環境を整えたため遠方の方や不規則な勤務の方にも参加していただけるようになった。12月以降3月までに、企業研究セミナーを中心に30講座を実施している。
 - 就職決定率は97%となった。

【研究分野】

- 公的研究費の適正な管理の強化
 - 不正防止計画推進部署 (教育研究支援事務局) から、同ガイドラインの要請に基づく、教職員への研修・啓蒙活動を行った。
 - 2022年9月に行われた文部科学省との「令和4年度履行状況調査対象機関に対するヒアリング及び意見交換」を踏まえて、本学の体制が好事例として同省HPで公表された。
 - 購買発注・予算管理・各種報告書作成機能を備えた、科研費・外部資金を管理する「研究費管理システム」を導入した。2023年3月より説明会を行い、トライアル期間後の同システムの本稼働は5月からとなる。

【国際化分野】

- 国際化推進
 - 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響によりアメリカ現地で開催された大学説明会へ参加することはできなかったが、アメリカ在住の帰国学生を対象としたオンライン説明会に2回参加した。
 - 説明会全体の申込組数
2022年春：729組 2022年秋：854組
 - 本学参加日の参加組数
2022年春：182組 2022年秋：206組

【社会貢献分野】

- 社会貢献
 - 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、TOUは2022年度も休業した。ただし、コロナ下の長期化による社会変動に伴い、2023年度以降の運営を模索するため、学長室にて検討を開始する。
 - 連携推進センターにおける各自治体関係との活動として、香川県小豆島、善通寺市ほか、長野県飯田市、岩手県住田町などのまちづくりや地域活性化を学生、教職員とともに各手法を用いて現地に赴き対面に実施した。
 - 千駄ヶ谷キャンパスにて「鯖江市×津田塾大学シンポジウム」を開催し、連携関係を強化した。
 - 香川大学にて「香川と都市圏の大学連携推進事業〜かがわBridgeプロジェクト (KBP) 〜シンポジウム」を実施し、香川大学、芝浦工業大学、東京農業大学との連携関係を強化した。
 - 飯田市にて飯田市伝統工芸である水引商品を学生が新たに企画・発案したMe'sを商品として販売展開が開始された。

【施設整備分野】

- 建築 (小平キャンパスマスタープラン)
 - 小平キャンパスインフラ整備 (電気系統) の当該年度計画 (受変電設備建物建設、受変電設備新設) を計画通り実施した。
 - 新築建設の検討を進めることで学内調整中である。
- 修繕
 - 旧書庫空調更新及び換気設備設置工事を計画通り実施した。
 - 旧書庫屋上防水改修工事を計画通り実施した。
 - 津田梅子記念交流館中庭改修工事を計画通り実施した。
 - 第2井戸修繕を計画通り実施した。
 - ポンプ所消火ポンプ更新を計画通り実施した。
- 設備更新
 - 中長期設備更新計画立案・見直しは2022年度中に実施完了まで至らず、2023年度も継続してマスタープランの見直しを検討の上、中長期設備更新計画立案・見直しを実施予定である。
 - 5号館受変電設備更新工事を計画通り実施した。
 - 千駄ヶ谷南空地備品倉庫整備を計画通り実施した。
 - 千駄ヶ谷キャンパスの環境整備の向上を目指し、低木の全面入替を実施した。また、学生の休憩スペース確保のため、カフェテリアの什器更新、中庭へのパラソル、什器等の追加設置を実施した。
 - 西国分寺セミナーハウスWiFi化工事を計画通り実施した。

【組織・運営体制分野】

- 認証評価
 - 2022年度は、大学認証評価 (2024年3月申請予定) に向けて準備を進めた。修士・博士課程ごとのポリシーや明文化されていなかった各種方針の策定を行った。(教員像、教員組織の編制方針など) 報告書の作成にあたっては、実際に大学評価を受ける際と同様の点検評価項目で報告書を作成中である。学修成果の点検・評価 (Check)、教学事項の改善、見直し (Action) については、2023年度もIR推進室と連携し、引き続き対応していく。
 - 2022年12月に、従来は1年生と3年生のみが対象であったALCS学修行動比較調査を、全学年を対象に実施した。
- 働き方改革
 - テレワーク勤務は、一人当たり月4回としたテレワークガイドラインを設け、対面とテレワークによる勤務を併用した。時間外勤務は、平時と同様、対面授業が再開したことに伴い、前年度よりも時間数は増えたが、コロナ以前よりは削減した。また、オンライン化によって、SD研修の参加者数はコロナ以前よりも大幅に増え、資格取得に向け、自己啓発研修制度を活用した職員が増えた。
 - 外部からの問い合わせ対応は、問い合わせフォームを活用するとともに、事務局の窓口時間及び電話受付時間は9時から16時とした。
- 業務改善
 - 非常勤講師就業規則改定案を作成し、就業規則等連絡協議会で提示した。過半数代表側からの意見聴取の結果を受け、給与の支払いは月給制に一本化することとし、再度、改定案を作成することになった。2023年度早々に非常勤講師就業規則改定案を固め、2024年度からの改正、施行に間に合うよう、準備を進めた。
 - 発生源入力の効果を見極めるため、2022年度は発生源入力を継続した。
 - 主管部署の職員の異動・退職及び千駄ヶ谷キャンパス事務室の人事異動に伴

い、運営体制の再構築を継続して実施する。また、教務部門の執務場所をプランチオフィスとし、学外学修センター、キャリアセンターとの連携の強化を継続する。

【記念事業分野】

14. 120周年記念事業

- 記念講演会については、山崎章郎氏／上野創氏特別対談や作家柚木麻子氏／学長特別対談、石内都 in Tsudajuku-女たちのポリフォニー展オープニング記念特別対談、3人の女子留学生の研究者による鼎談など2022年度も継続して実施した。
- 小袖修復プロジェクトについては、「女子美術大学 染織文化資源研究所」の協力により、予定通り保存処理・修復作業を終了した。修復完了した小袖は2022年12月24日、資料室へ返却された。
- 募金事業については、120周年記念事業中間報告書（寄付金募集要項）にて、在学生保護者、同窓生、企業へ呼びかけた。
- 女性のキャリア支援については、30% Club Japan 大学グループのメンバーとして本学が参画した。2022年12月5日、高橋学長及び東京大学藤井総長との対談が行われ、「大学の女性上位職30%に向けての取り組み」について意見交換を行った。その内容は同ClubのHPを通じて広く国内外に向けてリリースされた。
- 理系教育強化事業については、本学の「データサイエンス・リテラシープログラム」が、2022年8月に2022年度の文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定された。
- 国際化推進事業については、第3タームに二つの講演会を開催した。（①本学卒業生である千田悦子氏による講演会、②ロジャー・バルバース氏による英語での講演会）
- 留学に向けての英語力強化のため、英文ライティング講座（16名受講、寄付金により受講料本学負担）とIELTS準備講座（10名受講、受講料一部本学負担）を行った。
- 留学のための奨学金の充実に向けて検討を進めている。
- 「英語の津田」については、2023年度に理系、文系、どちらの学生も英語で「統計学」の基礎を学ぶ科目を開講する準備を行った。
- 交流館プログラムを再開した。
TOEFL講座（受講者8名）：TOEFL®iBTテストSpeakingとWritingに特化した講座。
TOEIC講座（受講者18名）：TOEICの傾向を探りながら、限られた時間でいかに効率よく解くかに焦点を置き、700点以上取得を目指す講座。

2 財務の概要

1 決算の概要

当年度決算の概要について、収支計算書（事業活動収支計算書、資金収支計算書）の状況及び貸借対照表の状況を説明する。なお、収支計算書の説明における「増」、「減」は、特に断り書きがない限り予算額に対する決算額の増減を表し、貸借対照表の説明における「増」、「減」は、前年度に対する増減を表す。また、金額はすべて百万円未満を四捨五入している。

2.1.1 収支計算書の状況

2022年度は、学芸学部・総合政策学部共に入学者数は想定よりも多かったが、コロナの影響が落ち着いてきた事もあり、留学に対する学費減免が想定より多かったため、学生生徒等納付金は予算に対し9百万円減少した。また、寄付金収入においては、想定していた遺贈寄付（1件）100百万円の手続きが継続中のため、予算より104百万円減少した。また補助金収入においても、私立大学等改革総合支援補助金、高等教育修学支援補助金、施設整備費等補助金を獲得した事により、予算より77百万円増加した。一方、支出面では予算執行時の節減による効果やコロナ対応の予算措置（交換留学生の費用負担や奨学金、モバイルWiFiルーター貸出費用など）が支出減となり管理経費が88百万円ほど想定より支出減となった。そのため、経常収支差額は35百万円となり、資金収支の翌年度繰越支払資金は十分な金額を確保している。

事業活動収支計算書の収支差額は以下の通りである。	
基本金組入前当年度収支差額	90百万円
基本金組入額合計	△57百万円
当年度収支差額	33百万円
資金収支計算書の翌年度繰越支払資金は以下の通り、目途としている500百万円を超える額となっている。	
翌年度繰越支払資金	691百万円

以下、金額の大きい費目、予算に対して増減の大きい費目について説明する。

【資金収支・事業活動収支共通】

（収入）

学生生徒等納付金収入

- 予算編成時の想定よりも留学減免者が増加したため、9百万円減少した。

手数料収入

- 想定より出願者が少なかったため、30百万円減少した。

寄付金収入

- 遺贈寄付（1件）100百万円の手続きが継続中であるため、104百万円減少した。

補助金収入

- 私立大学等改革総合支援補助金43百万円、高等教育修学支援補助金120百万円、施設整備費補助金58百万円等を得たため、全体では77百万円増加した。

付随事業・収益事業収入

- コロナ下及び設備の老朽化により東・西寮を閉鎖し、白梅寮1寮のみの運用と

なっているため、入寮金・寮舎費収入が3百万円減少した。

- 富士通研究所共同研究4百万円等を得たため、受託事業収入が5百万円増加した。

（支出）

教育研究経費

- 消耗品支出は、コロナ対応の購入品の減少や予算執行時の節減により、19百万円減少した。
- 光熱水雑費支出は、2021年度と比較して電気料金が値上がりした事により32百万円増加した。
- 通信費支出は、節減による効果やコロナ対応での郵送費の減少により予算よりも、14百万円減少した。
- 旅費交通費支出は、11百万円増加した。
- 奨学費支出は、高等教育修学支援補助金を100百万円で予算計上していたが、120百万円となったため、17百万円支出が増加した。
- 修繕費支出は5102教室壁工事や5号館バルコニー庇の工事等、執行額が当初予算よりも減少したため、38百万円減少した。
- 衛生清掃費支出は、ナラ枯れ被害対策のため、22百万円増加した。
- 手数料・報酬支出は「（情報基盤）スイッチ機器更新一式」を教育研究用機器備品で支出したため、53百万円減少した。
- 実験実習費支出は、予算計上よりも総合政策学科及び情報科学科の新入生用ノートPC購入数増加等のため、14百万円増加した。

管理経費

- 光熱水雑費支出は、コロナ下により寮の体制を1人一部屋制で対応し、東・西寮は老朽化のため閉鎖した事により、9百万円減少した。
- 衛生清掃費支出は、コロナ対応の支出が想定より減少したため、17百万円減少した。
- 手数料・報酬支出は、コロナ下における交換留学生の費用負担15百万円を予算措置していたが、支出が発生しなかった事やモバイルWiFiルーター貸出費用8百万円の削減等により38百万円減少した。
- 広告費支出は、費用対効果の見直しをはかり広告対象を厳選した等により、11百万円減少した。

【資金収支】

（収入）

前受金収入

- 入学金前受金収入は想定より少ない受験者数であったため、12百万円減少した。
- 入寮金・寮舎費前受金収入はコロナ下及び東・西寮の閉鎖により想定より少ない入寮者数であったため、17百万円減少した。

その他の収入

- 退職給与引当特定資産取崩収入は、予定外の退職者があったことにより21百万円増加した。
- 減価償却引当特定資産取崩収入は、コロナ下による小平マスタープランの見直しにより、東・西寮の改修・建築設計を延期したこと等により、224百万円の取崩しとなり、予算より36百万円減少した。

（支出）

人件費支出

- 早期退職者1名による退職金21百万円増加した。

施設関係支出

- 旧書庫空調設備更新及び換気設備設置時に約100百万円支出減となった事、コロナ下により小平マスタープランの見直し（東・西寮の改修・建築設計を延期等）が行われ46百万円減となった事、交流館ウッドデッキ改修時に約20百万円支出減となった事、当初建物支出で予算措置していた「情報基盤設備更新等」を保守費で30百万円支出した事、5号館受変電設備更新工事46百万円予算計上額より19百万円支出が減少した事等により、233百万円減少した。

設備関係支出

- 教育研究用機器備品支出は、全学通信環境改善（SINET）、情報基盤設備、貸出ノートPC費用見直し、CIMS A及び出欠管理システム更新延期等により60百万円支出減少。

資産運用支出

- 退職給与引当特定資産繰入支出は、162百万円の繰入を行った。
- 減価償却引当特定資産繰入支出は、300百万円の繰入を行った。
- 特定目的引当特定資産繰入支出は、17百万円の繰入を行った。

2.1.2 貸借対照表の状況

奨学金引当特定資産

- 奨学金引当として3百万円の繰入と、34百万円の取崩しを行った結果、2022年度は31百万円の減少となった。

退職給与引当特定資産

- 退職給与引当として162百万円の繰入と、186百万円の取崩しを行った結果、2022年度は24百万円の減少となった。

減価償却引当特定資産

- 減価償却引当として300百万円の繰入と、224百万円の取崩しを行った結果、2022年度は76百万円の増加となった。

特定目的引当特定資産

- 特定目的引当として17百万円の繰入と、7百万円の取崩しを行った結果、2022年度は10百万円の増加となった。

以上

津田梅子記念会&ホームカミングデー開催について

2023年10月8日(日) 会場: 津田塾大学 小平キャンパス

■午前の部(10:30~12:10)

- ・学長挨拶、同窓会会長挨拶 ・津田梅子記念礼拝
- ・高校生エッセー・コンテスト表彰式 ・津田梅子賞贈賞式

■午後の部(13:30~15:00)

津田塾大学創立120周年記念 特別対談

話し手▶ 村木 厚子氏(本学客員教授、元厚生労働事務次官)

聞き手▶ 高橋 裕子(津田塾大学学長)

■その他のイベント

- ・津田梅子資料室企画展示
- ・山根敏子展

■連絡事項

- ・当日、同期会や有志で集まりたい場合は、大学の教室等を会場としてお使いいただけます。ご希望の方は経営企画課にお申込みください。なお、使用会場・時間帯は行事との関係で調整させていただく場合がございます。

■お申込み・問合せ先

経営企画課 TEL: 042-342-5146

E-mail: forum@tsuda.ac.jp

*詳細は決まり次第、津田塾大学公式Webサイトで公開します。

2023年度 第23回 高校生エッセー・コンテスト

「私たちはなぜ学ぶのか」～津田梅子のスピーチを手がかりに～

- 募集内容: 大学Webサイトに掲載している募集要項裏面の英文を読んで、「私たちはなぜ学ぶのか」をテーマにしたエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1000~1200字程度。(https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/index.html)
- 応募資格: 高校生(国籍・学年・性別・居住地は問いません)
- 応募方法: 所定のGoogleフォームにエッセーを記載して応募(郵送・持ち込みは不可)。
【Googleフォーム】https://forms.gle/hYyoeQFmxXLCDHPY6
- 募集期間: 2023年8月1日(火)~9月4日(月)12:00受付締め切り
- 表彰: 最優秀賞1名(賞状及び副賞5万円を贈呈)
優秀賞若干名(賞状及び副賞1万円を贈呈)
受賞者は、9月中に津田塾大学Webサイトで公表します。最優秀作品は津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と津田塾大学Webサイトに、優秀作品は津田塾大学Webサイトに掲載・公表します。なお、応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。
- 問合せ先: 津田塾大学ライティングセンター 高校生エッセー・コンテスト事務局
(TEL: 042-342-5142 E-mail: essaycon@tsuda.ac.jp)

夏期公開講座(大学院文学研究科英語教育実践研究)

- タイトル: 語彙指導について
- 講師: Prof. Stuart McLean
- 対象: 現職の英語教員、英語教育について学ぶ学生・大学院生、英語教育に関心のある方
- 日時: 2023年8月16日(水)、17日(木)、18日(金)、19日(土)、21日(月) 各日とも10:30~12:00
- 開催形式: 対面とオンライン(Zoom)によるハイブリッド※英語での講義です。同時通訳はありません。
- 会場: 津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス SA201教室
- 定員: 60名(先着順に申込受付、定員になり次第締切)
- 受講料: 各回2,500円(津田塾大学学部生1,000円)、全日程申込の場合は10,000円(津田塾大学専任教員・非常勤講師、津田塾大学大学院生の受講料は無料) 要事前申込。詳細は大学公式Webサイトをご覧ください。
- 申込方法: 所定のGoogleフォームのURLまたはQRコードからお申し込みください。
【Googleフォーム】https://forms.gle/M3jgLCQXWLNschw9
- 申込締切: 2023年8月9日(水)
- 問合せ先: 文学研究科英語教育実践研究担当 E-mail: e-info@tsuda.ac.jp



津田梅子記念交流館プログラム

「英語教員のためのワークショップ」

- 講師: 赤池秀代、田尻悟郎、執行智子
- 日時: 2023年8月20日(日)
10:00~16:45
- 定員: 50名
- 受講料: 6,000円、本学在学3,000円

「数学教員のためのワークショップ」

- 講師: 小林俊道、日詰明男、小森弘三、野町直史
- 日時: 2023年8月19日(土)、20日(日)
9:00~16:20
- 定員: 28名
- 受講料: 16,000円、本学在学8,000円

本学在学生の受講料は半額です。詳細は交流館Webサイト(https://koryukan.tsuda.ac.jp)をご参照ください。



Tsuda Today No.128

発行日 ● 2023年7月18日

発行 ● 津田塾大学

編集 ● 経営企画課 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1

Tel. 042-342-1662 https://www.tsuda.ac.jp/

表紙切り絵 ● CHIKU

(種村千明・2000年卒)